

科目名	観光と文化	単位数	2	授業形態	講義	担当 教員	天野 景太 (文)
英語表記	Lecture in Tourism and Culture						

● 科目の主題

世界文化遺産に象徴される歴史的な建造物や芸術作品を鑑賞したり、国際的なイベントに参加したり、テーマパークで映画に登場するキャラクターと出会ったり、民芸品を土産として購入したりなど、地域の文化との接触・交流を目的とした観光（文化観光）は、自然観光と並び現代の観光形態の主流をなしている。観光対象としての文化は、過去から現在に至るまでのその地域における人間活動の記録・記憶の象徴から、観光目的で新たに創造されたものまで、さまざまである。

本科目では、こうした“文化”が、どのように観光資源化され、演出され、観光客に対して呈示されているのか、また、文化の観光化に伴う地域文化の変容が、地域の人々にとって、観光者にとって、どのような影響を及ぼすのか、といった視点から、観光と文化の関わりについて、具体例を挙げながら検討する。

● 授業の到達目標

自らの観光体験や異文化体験を本科目で解説された内容を参考にしながら、分析・考察出来るようになる。文化の観光化のあり方を理解することを通じ、自らが拠り所としている文化を相対化して捉え、他者に呈示する（例：外国の友人に日本文化を紹介する・日本の文化的観光資源をガイドする、など）ためのスキルの基礎が身につく。

● 授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 観光と文化とのかかわり～“世界遺産観光”の展開を例に
- 第3回 観光と文化遺産Ⅰ～世界遺産の概要と世界遺産検定ガイダンス
- 第4回 観光と文化遺産Ⅱ～文化の継承と遺産の制度化・商品化
- 第5回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅰ

- 第6回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅱ
- 第7回 観光における宗教文化の呈示と消費の諸相
- 第8回 観光における都市文化の呈示と消費の諸相
- 第9回 観光アトラクションの文化史Ⅰ「タワー」
- 第10回 観光アトラクションの文化史Ⅱ「遊園地とテーマパーク」
- 第11回 観光アトラクションの文化史Ⅲ「観光鉄道とクルーズ船」
- 第12回 観光アトラクションの文化史Ⅳ「温泉旅館とホテル」
- 第13回 観光アトラクションの文化史Ⅴ「リゾート」
- 第14回 観光アトラクションの文化史Ⅵ「土産品」
- 第15回 観光とメディア文化～デジタルメディアによる現実拡張経験

授業は講義形式で行う。加えて写真や旅番組やCM等の映像、観光ガイドブックやWEBサイトなど、ビジュアルな資料を豊富に提示する。板書は基本的に行わないので、講義内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていくことが求められる。

● 事前・事後学習の内容

日頃から主体的に新聞やテレビに接し、観光、国際情勢等に関するニュースに親しんでおくこと。また授業後、その日の授業内容に関して文章化し、自分の考えとともにノートにまとめておくことと良い。

● 評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらおう。コミュニケーションペーパー

への回答 (30%)、とレポート (35%)、期末試験 (35%) で評価する。ただし、コミュニケーションペーパーへの回答数 (≒出席数) が通算で 11 回未満 (出席率 70%未満) の場合、評点にかかわらず原則として F 評価となる。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等やむを得ず欠席する場合、出席率への配慮はするが (コミュニケーションペーパーへの回答無き場合) 平常点の加点はしない。

● 受講生へのコメント

授業内容に関連する検定試験として「世界遺産

検定」を本学で実施予定であるが、それに関連するガイダンスと申込受付を授業内で行う。世界遺産や就職に向けての資格取得に興味のある者は受験を推奨する。また、観光に関してより理解を深めたい者は、「観光研究入門」や、文学部の「観光文化論」等を併せて履修するとよい。

● 教材

安福恵美子編(2016)『「観光まちづくり」再考』古今書院。

毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で用いたプリントの再配布はしない。